

CONTENTS

* 研究補助員配置制度

* カモミール月曆

* 男性と育児・介護

* 意識啓発セミナー

* キャリアパス支援後援会

* 英語論文執筆セミナー

研究補助員配置制度



この制度は、育児や介護等により研究時間の確保が困難な研究者を対象に、研究データ解析、学会発表資料作成、実験補助、文献調査、統計処理等の研究補助業務を行う研究補助員を配置し、育児等と研究との両立を支援する目的で行うものです。また次世代育成のために、研究支援者と被支援者双方のキャリア形成、キャリア復帰等のチャレンジ支援・再チャレンジ支援に寄与することも目的としています。

2021年度 第1期 研究補助員の配置を希望する研究者の募集

配置期間：2021年5月1日～2021年9月30日

申請期間：2021年1月15日（金）～2021年1月29日（金）午後4時まで

申請資格

本学に雇用される研究者で次のいずれかに該当する者

- 1) 小学校3年生までの子どもをもつ研究者
(休暇、休業中を除く)
- 2) 市町村から要介護、要支援、障害者の認定を受けている親族について、主たる介護・看護者が申請者自身である研究者
* 上記1) 2) の申請資格に関しては、配偶者がいる場合は原則として配偶者がフルタイム就労者である者とする。ただし、配偶者が疾病・負傷等により就労・育児・介護を行うことが著しく困難など特段の事情がある場合はこの限りではない。
- 3) 妊娠中の体調不良により、研究活動等の遂行に支障がある女性研究者（産前休暇中を除く）
* 上記3) の申請資格に関しては、配偶者の就労形態については問わないが、申請者の体調に関して配偶者、研究室責任者あるいは部局長、医師等と相談し、研究継続が可能かどうかを確認のうえ申請すること。
- 4) 男女共同参画推進室長が認める者

本制度の対象となる職

- 1) 常勤職員のうち、以下の職に従事している者
(a) 教授、准教授、講師、助教、助手
(b) 医員（専攻医、臨床助教）*
- 2) 有期雇用職員（フルタイム）のうち、以下の職に従事している者
(a) 特任教員
(特任教授、特任准教授、特任講師、特任助教)
(b) 研究員・研究支援員*
- 3) 男女共同参画推進室長が認める者

* 大学院生は不可

詳細は男女共同参画推進室WEBでご確認ください。

<https://www1.gifu-u.ac.jp/~sankaku/>

カモミール月曆（室長からのメッセージ）



副学長（多様性・人権・図書館担当） 林 正子

東海国立大学機構ウェビナー 紹介（その1）

昨年末、名古屋大学男女共同参画センターの企画により、2件の Zoom ウェビナーが開催され、岐阜大学も東海国立大学機構として参加させていただきました。大変有意義なウェビナーでしたので、ここにその概要をご紹介します。構成員の皆さんにそれぞれのテーマへのご関心を持っていただき、収録された YouTube での視聴等を通して、課題共有のための一助としていただければ幸いです。

HeForShe 公開ウェビナー

2020年11月27日（金）名古屋大学男女共同参画センター 高橋麻奈 特任助教 の司会による公開ウェビナー「男性ダンス集団『コンドルズ』：目指す多様性とジェンダー」が119名の参加を得て開催されました。アーティストとして「ジェンダー平等」（SDGs Goal 5）の重要性をどのように表現し伝えてゆくことができるか——舞台芸術・演出における「ジェンダー平等」の達成に向けた役割や可能性について、「コンドルズ」のメンバーによるディスカッションに先立ち、名古屋大学 伊東早苗 副総長（広報・多様性・男女共同参画・人権・SDGs担当）より「HeForShe」についての紹介がありました。

「HeForShe」とは、2014年9月に発足した国連 UN Women が展開する「ジェンダー平等」達成のための国際的な連帯運動を表す言葉です。「彼女のための彼」、すなわち男性が変革の主体者として「ジェンダー平等」をめざす活動を指しています。

2015年、国連 UN Women は、男女共同参画推進の取り組みに優れた10の国家元首、10の企業、10の大学を選抜するプロジェクト「HeForShe IMPACT Champion」を実施しました。松尾誠一 総長（東海国立大学機構 機構長）のリーダーシップのもと展開されている精力的な活動が認められ、名古屋大学は日本の大学として唯一選出されました。

さて、男性メンバーのみで構成されている「コンドルズ」は、世界30か国以上で公演の実績があり、ニューヨークタイムズ紙も絶賛した、日本を代表するコンテンポラリーダンス・カンパニーです。ダンサーとして芸術選奨文部科学大臣賞を受賞し、振付家としても活躍している主宰者の近藤良平さん、『芸術新潮』などで執筆活動を展開し、ラジオ番組のパーソナリティも務めるプロデューサーの勝山康晴さん、英・独・ベルギーにもダンス留学経験があり、語学も堪能、外資系IT企業の代表取締役でもある古賀 剛 さん、著書『冒険する身体』で知られ、音楽にも造詣の深い大東文化大学文学部准教授の石淵 聡 さん——まさにダイバーシティを体現する「コンドルズ」のメンバーによるディスカッションが、「面白くないはありますがありません」「為にならないはありますがありません」。

ディスカッションでは、まずコンドルズの活動が「くらしさ」への反逆であることが語られました。男性だけのダンス集団と聞くと「マッチョなイメージ」を抱く人が多いと思いますが、そのイメージ自体が実は「無意識のバイアス」から生じる「らしさ」であって、コンドルズは舞台芸術やダンスにおける「くらしさ」への反逆」をめざしてきたとのこと。

1980年代後半、ほとんどのモダンダンス・チームが女性優位であったという状況への「反逆」からコンドルズは生まれ、しかも、いわゆるダンサーらしくないメンバーが集まり、自らのダンスを縦横無尽に楽しみ、「仕事か夢（舞台）か？」という人生における「二者択一」が「欺瞞」であることを指摘し、ダンサー「らしく」や社会人「らしく」を追求せず、自分「らしさ」を楽しむ——メンバーによるそのような自論自説が、生き生きと繰り広げられました。

コンドルズは「21世紀の日本を代表するダンスカンパニー」といわれていますが、上下関係の発生するオーディションもなく、水平ネットワーク組織が形成されているとのこと。コンドルズが体現する「ダイバーシティ」や「ジェンダー平等」について、「ハンドルズ」（障害者によるダンス公演プロジェクト）、「ラウドヒル」（地域活性につながる女性ダンスユニット公演プロジェクト）、ヨーロッパ留学でのダンスを通しての学び、自身の家族との関係性やジェンダー役割等々、百花繚乱の話題が展開されました。

このように、コンドルズの理念や活動自体が、「ジェンダー平等」をめざす「HeForShe」の「連帯運動」と共鳴し連動していることが、しみじみと伝わってくる素敵なウェビナーとなりました。終了後のアンケート回答からも、「ダイバーシティ」や「ジェンダー平等」をテーマとする通常の講演会やシンポジウムとはまったく趣の異なるディスカッションに、大勢の視聴者が魅了され、多くを学んだことがうかがえます。<https://www.youtube.com/watch?v=12VgKbF-ygY&feature=youtu.be> のURLで全編をお楽しみいただけます。お時間のおありの折に、どうぞぜひご視聴ください。

12月25日（金）に開催された LGBT等ウェビナー「フレンドリーな環境の構築を目指して～多様な性を生きる学生や教職員に寄り添うために大切なことを学ぶ～」については、「東海国立大学機構ウェビナー紹介（その2）」として次号の「カモミール月曆」でご報告します

男性と育児・介護



男女共同参画推進室 特任助教
落合 絵美

近年、「イクメン」や「家事ダン」といったように家事や育児をする男性（父親）を取り上げるメディアや自治体等における取組を目にする機会が増えました。

内閣府が実施した「2019年度男女共同参画に関する世論調査」の結果によれば、育児、介護など家庭で担われている役割について自分と配偶者でどのように分担したいかを問う質問では、保育所、訪問介護、家事代行などの外部サービスの利用／非利用を含め「自分と配偶者で半分ずつ分担したい」との回答が最も多くなっており、育児は56.6%、介護は64.4%、育児・介護以外の家事は58.3%といずれも過半数を占めています（『共同参画』2019年12月号、5頁）。また、この傾向は若い世代ほど顕著となっており、18～29歳では7割以上を占めています（同上）。

それでは、この「半分ずつ分担」を理想（希望）とした場合、現実（実際）の家事・育児分担はどうなっているのでしょうか？『男女共同参画白書 令和2年版』によれば、6歳未満の子どもを持つ夫婦の家事・育児関連時間（週全体平均、1日あたり）は妻が7時間34分に対して夫は1時間23分にとどまっています（図1）。また、欧米6か国との国際比較では、すべての調査対象国において妻の家事・育児関連時間が夫より長い傾向にあるものの、日本ではその時間差がとりわけ大きくなっています（同上）。

このように、家事・育児に費やす時間は女性（妻）側に大きく偏っており、このことが既婚女性の非正規雇用率の高さをはじめとするジェンダー格差に影響していると考えられます。

介護についてはどうでしょうか？育児については、婚外子の割合が出生総数の2%程度と欧米諸国に比べて著しく低い日本では、ほとんどの子どもが婚姻関係にある父母のもとに生まれており、また女性（妻）が男性（夫）よりも多くの家事・育児時間を担う傾向にあることは上述の通りです。

他方で、親の介護については、私たちが「誰かの子ども」である限り、配偶者の有無にかかわらず当事者になる可能性は少なくありません。厚生労働省『平成28年国民生活基礎調査の概況』によれば、「同居の主な介護者」の34%が男性であり、そのうちの3割（29.9%）が59歳以下となっています。また、介護時間が「ほとんど終日」と回答した介護者の続柄を見ると、妻が35.7%、娘が20.9%、子の配偶者（嫁）が11.9%に対して、夫（15.2%）、息子（10.5%）となっています（図2）。依然として女性が介護を担う傾向にはありますが、平山（2017）が「息子介護者はもはや少数とは言えない。」と指摘しているように（平山 2017:17）、きょうだい数の減少、生涯未婚率や共働き率の上昇などの影響を受けて、男性が介護の当事者になる可能性は今後ますます高まると予想されます。

男女共同参画に関する制度や取組については、「女性のための制度・取組」と捉えられる傾向があり、実際に岐阜大学においても育児・介護等に困難を抱える女性たちの就業環境改善に向けた様々な取組が展開されています。しかしながら、これらの取組は、育児・介護等に直面するすべての人々にとって役立つ制度であり、女性がその当事者になることが多かった現状を反映しています。ゆえに、育児や介護と両立できる大学環境の整備は、男女問わず多様で貴重な人材が活躍するための土台なのです。

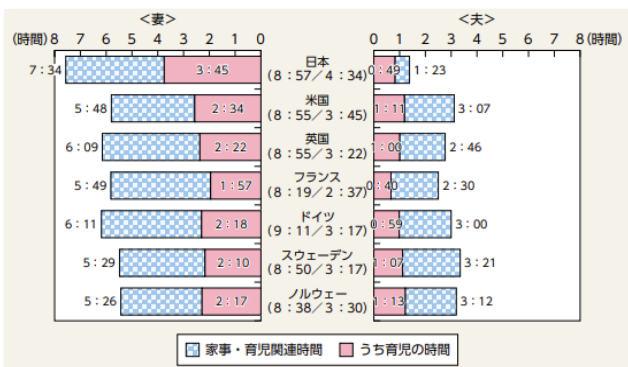


図1 内閣府『男女共同参画白書 令和2年版』2019年、47頁
https://www.gender.go.jp/about_danjo/whitepaper/r02/zentai/pdf/r02_tokusyuu.pdf

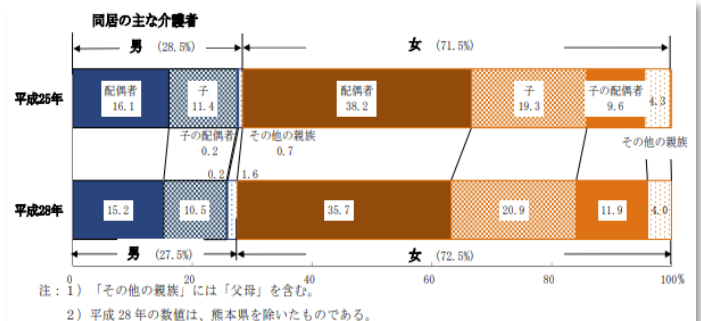


図2 厚生労働省「平成28年国民生活基礎調査の概況」2017年、32頁
https://www.gender.go.jp/about_danjo/whitepaper/r02/zentai/pdf/r02_tokusyuu.pdf

参考文献：内閣府、『共同参画』2019年12月号、<https://www.gender.go.jp/public/kyodosankaku/2019/201912/pdf/201912.pdf>

平山亮、『介護する息子たち—男性性の死角とケアのジェンダー分析—』2017年、勁草書房。



イベント情報



(オンライン開催Zoom)

Click ↓

1) 意識啓発セミナー（アピ株式会社）

申込締切
1/20

介護は一人でするものではない
～仕事と介護の両立はできる～

講師： 入学 佳宏（にゅうがく よしひろ）氏
（岐阜市地域包括支援センター南部
主任介護支援専門員）

日時： 1月27日（水）13：30～14：30

申込み先： 岐阜大学男女共同参画推進室 E-mail：sankaku@gifu-u.ac.jp



2) キャリアパス支援後援会（岐阜薬科大学）

申込締切
1/27

医薬品適正使用を目指した薬物動態研究の実践
～これまでのキャリアを振り返って～

講師： 矢野 育子 氏（神戸大学医学部附属病院
薬剤部長/神戸大学大学院医学系研究科 教授）

日時： 2月2日（金）14：40～16：10

詳細：ポスターをクリック又は、<https://www1.gifu-u.ac.jp/~sankaku/>



3) 英語論文執筆セミナー（岐阜薬科大学）

申込締切
1/29

インターネット時代に採択される
英語論文の書き方

講師： 川上 輪子 氏（リンクサイエンス代表）

日時： 2月17日（水）13：00～16：00
（スカイプによる質疑応答2時間）

詳細：ポスターをクリック又は、<https://www1.gifu-u.ac.jp/~sankaku/>



- 1)、2) 岐阜大学・岐阜薬科大学・岐阜女子大学・アピ株式会社の全構成員対象
- 3) 岐阜大学・岐阜薬科大学・岐阜女子大学・アピ株式会社の教員、研究職など対象（大学院生可。年齢・分野不問）

